

認定住宅新築等特別税額控除を受ける方の記載例

給与と所得について年末調整を受けた方で、認定住宅新築等特別税額控除を受ける場合

手順1
7ページ参照

手順2
8ページ参照

手順3
12ページ参照

| | | |
|---|---|---|
| 00 税務署長 29年2月16日 平成28年分の所得税及び復興特別所得税の確定申告書A | | FA0112 |
| 住所 (又は居所) 00市△△町X-XX-X | 個人番号 XXXXXXXXXXXXXX | 第一表 (平成二十八年分以降以降用) |
| フリガナ コクセイ タロウ | 氏名 国税 太郎 | 性別 男 |
| 生年月日 同上 | 生年月日 3/48/1116 | 本人 本人 |
| 給与 7140000 | 課税される所得金額 (5-6) 2636000 | 上の②に対する税額 (9) 166100 |
| 雑 公的年金等 その他 | 配当控除 (特定増改築等)区分 住宅ローン控除 政党等寄附金等特別控除 住宅ローン特別控除 住宅ローン特別控除 住宅ローン特別控除 | 配当控除 (23) 166100 |
| 所得金額 給与 雑 配当 一時 合計 (1)+(2)+(3)+(4) 5226000 | 算 の 計 算 所得税及び復興特別所得税の 差戻徴収税額 所得税及び復興特別所得税の 差戻徴収税額 所得税及び復興特別所得税の 差戻徴収税額 | 所得税及び復興特別所得税の 差戻徴収税額 (35) 0 所得税及び復興特別所得税の 差戻徴収税額 (36) 0 外国税額控除 (37) 0 所得税及び復興特別所得税の 差戻徴収税額 (38) 169500 所得税及び復興特別所得税の 差戻徴収税額 (39) 0 申告期限までに 納付する金額 (40) 169500 |
| 所得から差し引かれる金額 社会保険料控除 小規模企業共済等掛金控除 生命保険料控除 地震保険料控除 寡婦、寡夫控除 勤労学生、障害者控除 配偶者(特別)控除 扶養控除 基礎控除 ⑥から⑮までの計 2589196 | その他 配偶者の合計所得金額 源泉徴収 申告期限までに 納付する金額 延納届出額 | 延納届出額 (45) 000 |
| 雑損控除 医療費控除 寄附金控除 合計 (18)+(17)+(13)+(15) 2589196 | 還付される税金 源泉徴収 源泉徴収 源泉徴収 源泉徴収 | 源泉徴収 (41) 000 源泉徴収 (42) 000 源泉徴収 (43) 000 源泉徴収 (44) 000 |

マイナンバー
(個人番号)を記入する
必要があります。

明治・・・「1」
大正・・・「2」
昭和・・・「3」
平成・・・「4」

手順4
24ページ参照

手順4
22ページ参照

手順5
26ページ参照

該当する事項
がある方のみ
記入します。

手順5
26ページ参照

還付される税金
がある方のみ
記入します。

- ◎ 申告書は複写式になっています。申告書第一表と第二表を折りたたんだまま記入せず、広げるか、中央のミシン線で切り離してから記入します。
- ◎ 申告書は、黒いインクのボールペンで、強く記入します。
※ この記載例では、記入した部分を便宜上青色で表示しています。
- ◎ 申告書の該当する箇所は必ず記入します。
- ◎ 2枚目は複写式の控えになっていますが、取り外して使用しても差し支えありません。申告書を提出するときは、2枚目は取り外してください。
- ◎ この記載例では、「平成28年分 所得税及び復興特別所得税の確定申告の手引き 確定申告書A用」の該当ページを示しています。詳細については、「平成28年分 所得税及び復興特別所得税の確定申告の手引き 確定申告書A用」を参照してください。
- マス目に数字を記入する場合は、記入例①にならって、マス目の中に丁寧に記入してください。
- 1億円以上の金額がある場合は、記入例②にならって記入してください。
- 訂正する場合は、記入例③にならって、訂正する文字を二重線で抹消し、上の欄などの余白に適宜記入してください。

記入例①

縦線1本 すきまをあける 上に突き抜ける 角をつくる 閉じる

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

記入例②

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 0 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

記入例③

| | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 8 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7 | 0 | 0 | 0 | 0 |

(取得した認定住宅に関する事項)

居住開始年月日 平成 28 年 9 月 30 日

家屋の総床面積及び居住用部分の床面積 90㎡・90㎡

平成 28 年分の所得税及び復興特別所得税の確定申告書 A

発行番号 FA0066

手順1
7ページ参照

住所 〇〇市△△町X-XX-X
フリガナ 国税 太郎

手順2
8ページ参照

| 所得の種類 | 種目・所得の生ずる場所又は給与などの支払者の氏名・名称 | 収入金額 | 所得税及び復興特別所得税の額 |
|-------|-----------------------------|-----------|----------------|
| 給与 | 給料 〇〇産業株式会社 | 7,140,000 | 169,500 |

25ページ参照

| 所得の種類 | 種目・所得の生ずる場所 | 収入金額 | 必要経費等 |
|-------|-------------|------|-------|
|-------|-------------|------|-------|

手順6
27ページ参照

○住民税に関する事項
扶養親族の氏名 姓 名 生年月日 別居の場合の住所
国税 二郎 子 平成20.6.1
個人番号 XXXXX-XXXX-XXXX
扶養親族の氏名 姓 名 生年月日 別居の場合の住所
個人番号
扶養親族の氏名 姓 名 生年月日 別居の場合の住所
個人番号

○所得から差し引かれる金額に関する事項

| 社会保険の種類 | 支払保険料 | 掛金の種類 | 支払掛金 |
|---------|-------|--------------|------|
| 社会保険料控除 | | 小規模企業共済等掛金控除 | |
| 合計 | | 合計 | |

| 新生命保険料の計 | 旧生命保険料の計 |
|------------|------------|
| 新個人年金保険料の計 | 旧個人年金保険料の計 |
| 介護医療保険料の計 | |

○配偶者等の氏名 生年月日
明・大 昭・平
○配偶者控除
○配偶者特別控除
個人番号

○扶養親族の氏名 生年月日 控除額
明・大 昭・平
個人番号

○扶養親族の氏名 生年月日 控除額
明・大 昭・平
個人番号

○扶養親族の氏名 生年月日 控除額
明・大 昭・平
個人番号

| 損害の種類 | 損害年月日 | 損害を受けた資産の種類など |
|-------|-------|---------------|
|-------|-------|---------------|

| 損害金額 | 保険金などで補填される金額 | 差し損失額のうち災害関連支出の金額 |
|------|---------------|-------------------|
|------|---------------|-------------------|

| 寄附先の所在地・名称 | 寄附金 |
|------------|-----|
|------------|-----|

第二表(平成二十八年分以降用) ○第一表は、第二表と一緒に提出してください。○源泉徴収票、国民年金保険料や生命保険料の支払証明書など申告書に添付しなければならない書類は添付書類台紙などに貼ってください。

控除対象配偶者や扶養親族のマイナンバー（個人番号）も記入する必要があります。なお、還付申告の方で、申告する所得が年末調整を受けた給与所得のみの場合で、配偶者（特別）控除や扶養控除に異動がないときは、第二表の⑩～⑫欄のマイナンバー（個人番号）の記入を省略できます。

※ 記載例中における社会保険料の金額は、実際の金額とは異なります。

【ご注意】

◎ 支払者から受領した「給与所得の源泉徴収票（原本）」を添付書類台紙に貼って提出しなければなりません。

（参考） 「給与所得の源泉徴収票」

平成28年分 給与所得の源泉徴収票

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|----------------|--------------------|-------------|----------------------------|---------------------|-----------------|--|---------------------------|----------------|-----------------|-------------|-------------------------------|--|
| 支払 を受ける 者 | 住所 又は 居所 | 〇〇市△△町×-××-× | | | | | | | | | | (受給者番号) | |
| | | | | | | | | | | | | (役職名) | |
| | | | | | | | | | | | | 氏名 (フリガナ) コクゼイ タロウ 名 国税 太郎 | |
| 種 別 | | 支 払 金 額 | | | 給 与 所 得 控 除 後 の 金 額 | | | 所 得 控 除 の 額 の 合 計 額 | | 源 泉 徴 収 税 額 | | | |
| 給与・賞与 | | 内 千 円 7 140 000 | | | 千 円 5 226 000 | | | 千 円 2 589 196 | | 千 円 169 500 | | | |
| 控除対象配偶者の有無等 | | 配偶者特別控除の額 | | 控除対象扶養親族の数 (配偶者を除く。) | | | | 16歳未満扶養親族の数 | 障害者の数 (本人を除く。) | | 非居住者である親族の数 | | |
| 有 無 | | 千 円 | | 特 定 人 従 人 | | 老 人 人 従 人 | | そ の 他 人 従 人 | | 特 別 人 従 人 | | そ の 他 人 従 人 | |
| ○ | | | | 1 | | | | | | 1 | | | |
| 社会保険料等の金額 | | | 生命保険料の控除額 | | | 地震保険料の控除額 | | | 住宅借入金等特別控除の額 | | | | |
| 内 千 円 1,073 196 | | | 千 円 105 000 | | | 千 円 21 000 | | | 千 円 | | | | |
| (摘要) | | | | | | | | | | | | | |
| 生命保険料の内訳 | | 新生命保険料の金額 | | 旧生命保険料の金額 | | 介護医療保険料の金額 | | 新個人年金保険料の金額 | | 旧個人年金保険料の金額 | | | |
| | | 25,000 | | 35,000 | | 90,000 | | | | 25,000 | | | |
| 住宅借入金等特別控除の内訳 | | 住宅借入金等特別控除(1回目) | | 住宅借入金等特別控除(2回目) | | 住宅借入金等特別控除(1回目) | | 住宅借入金等特別控除(2回目) | | 住宅借入金等特別控除(1回目) | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 控除対象配偶者 | | (フリガナ) コクゼイ リョウコ | | 氏名 国税 良子 | | 配偶者の合計所得 | | 国民年金保険料等の金額 | | 旧長期損害保険料の金額 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 控除対象扶養親族 | | 1 (フリガナ) コクゼイ イチロウ | | 氏名 国税 一郎 | | 16歳未満の扶養親族 | | 1 (フリガナ) コクゼイ シロウ | | 氏名 国税 二郎 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2 (フリガナ) | | 氏名 | | | | 2 (フリガナ) | | 氏名 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | 3 (フリガナ) | | 氏名 | | | | 3 (フリガナ) | | 氏名 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | 4 (フリガナ) | | 氏名 | | | | 4 (フリガナ) | | 氏名 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 未成年者 | | 外国人 | | 死亡退職者 | | 乙 障害者 | | 本人が障害者の特 別 其 他 特 別 夫 | | 勤 労 学 生 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 中途就・退職 | | 受給者生年月日 | | | |
| | | | | | | | | 就職 退職 年 月 日 明 大 昭 平 年 月 日 | | 年 月 日 | | | |
| | | | | | | | | 28 | | ○ 48 11 16 | | | |
| 支払者 | | 住所(居所)又は所在地 | | 〇〇区〇〇×-××-× | | | | | | | | | |
| | | 氏名又は名称 | | 〇〇産業株式会社 (電話) ××-××××-×××× | | | | | | | | | |

【認定住宅新築等特別税額控除額の計算明細書（平成26年4月1日以後居住用）】

認定住宅新築等特別税額控除額の計算明細書
(平成26年4月1日以後居住用)

(平成28年分) 氏名 国税太郎

この明細書は、認定住宅の新築又は建築後使用されたことのない認定住宅の取得をして平成26年4月1日以後に居住の用に供した方が、認定住宅新築等特別税額控除を受ける場合に、認定住宅新築等特別税額控除額を計算するために使用します。
詳しくは、「認定住宅新築等特別税額控除を受けられる方へ」を読んでください。
なお、平成26年3月31日以前に居住の用に供してこの控除を受ける場合には「認定住宅新築等特別税額控除額の計算明細書（平成26年3月31日以前居住用）」を使用してください。

1 共有者の氏名（共有の場合のみ書いてください。）

| | | | |
|------|--|------|--|
| フリガナ | | フリガナ | |
| 氏名 | | 氏名 | |

2 認定住宅に係る事項
※ 前年分においてこの控除を受けた場合で前年から繰り越された控除未済税額控除額のみについてこの控除を受けるときは、①欄のみ記入します。

| | | |
|------------------------|---|---------------------|
| 居住開始年月日 | ① | 平成28年9月30日 |
| 総床面積 | ② | 90.0 m ² |
| ②のうち居住用部分の床面積 | ③ | 90.0 |
| 床面積1㎡当たりの標準的なかかり増し費用の額 | ④ | 43,800 円 |
| あなたの共有持分 | ⑤ | / |

※ 共有の場合のみ書いてください。

3 税額控除限度額の計算等
※ 前年分においてこの控除を受けた場合で前年から繰り越された控除未済税額控除額のみについてこの控除を受けるときは、⑬欄のみ記入します。

| | | |
|---|---|------------------------|
| 標準的なかかり増し費用の額 (④×②) | ⑥ | 3,942,000 円 |
| あなたの持分に相当する費用の額 ⑥又は(⑥×⑤) | ⑦ | 3,942,000 |
| 居住用割合 (③÷②) ※ 小数点以下第1位まで書きなさい。 | ⑧ | 100.0 % |
| 居住用部分に相当する費用の額 (⑦×⑧) | ⑨ | 3,942,000 円 |
| 認定住宅限度額 | ⑩ | 650万円 500万円 |
| ⑨と⑩のいずれか少ない方の金額 | ⑪ | 3,942,000 円 |
| 税額控除限度額 (⑪×10%) | ⑫ | 394,200 (100円未満の端数切捨て) |
| 前年から繰り越された控除未済税額控除額 (前年分の計算明細書の⑬の金額) | ⑬ | |

4 本年分で差し引く認定住宅新築等特別税額控除額の計算等

| | | |
|--|---|-------------------|
| 課税総所得金額に対する税額 | ⑭ | 166,100 円 |
| 配当控除 | ⑮ | |
| 投資税額等控除 | ⑯ | |
| (特定増改築等)住宅借入金等特別控除 | ⑰ | |
| 政党等寄附金等特別控除 | ⑱ | |
| 住宅耐震改修特別控除 | ⑲ | |
| 住宅特定改修特別税額控除 | ⑳ | |
| (⑭-⑮-⑯-⑰-⑱-⑲-⑳) | ㉑ | 166,100 (赤字のときは0) |
| 認定住宅新築等特別税額控除額 (⑫と㉑のいずれか少ない方の金額又は) (⑫と㉑のいずれか少ない方の金額) | ㉒ | 166,100 |
| 翌年に繰り越す控除未済税額控除額 (㉒) | ㉓ | 228,100 |

※ 前年に居住の用に供した住宅の場合は「0」となります。

提出用

この明細書は、申告書と一緒に提出してください。

- 認定住宅新築等特別税額控除の適用を受けるための手順と必要な書類
認定住宅の新築又は建築後使用されたことのない認定住宅の取得をしてこの控除を受ける方は、「認定住宅新築等特別税額控除額の計算明細書（平成26年4月1日以後居住用）」で控除額を計算し、申告書第一表の「税金の計算」欄の「住宅耐震改修特別控除、住宅特定改修・認定住宅新築等特別税額控除」欄の「認定住宅」の文字を○で囲み、「区分」欄に「3」を書き、控除額を転記してください。
また、上記の計算明細書のほか、認定通知書の写しなどの書類を確定申告書に添付して税務署に提出する必要があります。
- 詳しくは、「認定住宅新築等特別税額控除を受けられる方へ」を参照してください。